白神トピックス

今年度販売額15億円に到達

ねぎ部会

ＪＡあきた白神の主力品目である「白神ねぎ」の販売額が２月14日、15億円に到達しました。目揃会等の研修を通して出荷規格の統一により品質向上、平均単価増につながり、過去最高の販売額となっています。

佐藤組合長は「白神ねぎの品質が認められ、市場関係者からの期待も大きくなってきている。これからは、安定供給に向けた生産拡大が求められる。これを契機に、更なる知名度向上と併せ、需要に応えられる量の確保を進めていきたい。今後も、地域農業の発展と後継者が安心して就農可能な所得の確保・向上に向け、全力で取り組んでいく」と意欲を示しました。

過去最高の販売額を記録した白神ねぎ

種もみを積み込む担当者

うるち米・もち米種もみ13万６千キロ配布

経済課

31年産のうるち米・もち米の種もみの配布を能代地区では２月20日から常盤倉庫と集約倉庫で行いました。二ツ井、藤里を合わせた全地区では約13万６千キロの種もみが配布されました。「あきた白神米」の栽培に向けていよいよ春作業の準備が始まってきます。

このうち集約倉庫では、うるち米の「あきたこまち」や「ひとめぼれ」、もち米の「たつこもち」や「きぬのはだ」が配布され、あらかじめ予約していた数量の種もみを伝票で確認。担当職員が軽トラックなどの荷台に種もみを積み込みました。ＪＡあきた白神管内では４月中旬頃から播種作業が始まる予定となっています。

栽培のポイントや特性を学ぶ

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）による、スナップエンドウ栽培講習会が２月27日に生活総合センターで開かれました。生産者やＪＡ、種苗会社など約30人が参加し、品種の特性や病害虫対策などについて説明を受けました。

種苗会社の担当者からは「発芽の適温は18～20℃で最低でも地温13℃は確保してもらいたい。また、着莢開始節位は８節をめやすとし、整枝や摘花を行う」といった指導がされました。スナップエンドウは高い収益が見込めるほか、必要な資材も簡易で軽量野菜のため、女性や高齢な方でも取り組みやすい品目として、ＪＡでも作付けを推奨しています。

栽培のポイントを学ぶ生産者

疑問点について分かりやすく説明する中村先生

年金に関する相談や疑問を解消

金融課

年金の仕組みや受給にあたっての具体的な手続きの相談の場として、３月２日と３日の２日間、社会保険労務士の中村浩三先生と小布山洋一先生を招き、各支店において年金相談会を開きました。

このうち、のしろ東支店では中村先生が相談に対応。年金受給年齢が近くなった方や受給に当たって不安や疑問がある方、年金を受給中だが受給金額に疑問がある方などが相談に訪れ、先生の丁寧な説明やアドバイスで疑問点を解消していきました。ＪＡでは本店・各支店で年金相談を受け付けておりますので、ご不明な点やご相談がある方は、ぜひ窓口までお越しください。

蟹座（6・22～7・22） 環境などの変化がもとでプレッシャーを感じがち。気張らず、気楽に構えましょう。絵本を読むとリラックス可能